

# 子ども教育 通信

食べ物にはたくさんの色が隠れている、という気づき。

子ども教育学科3年  
山崎 真純  
| 金津高校出身 |

火の通った豚肉の表現に悩んでいた時、紫がかかったグレーを混ぜると本物に近い色が表れ、イメージに捉われすぎないことが大事だと感じました。今回の制作に関わったことで、普段は知り得ない絵本を作る側の視点が変わり、貴重な経験になりました。

思わず食べたくなるように描くことを目指しました。

子ども教育学科3年  
高岡 志帆  
| 丸岡高校出身 |

野菜や果物はみずみずしく、温かい料理は湯気を描くなどの工夫をして「食べた!!」と思える絵を目指しました。福井にはたくさんの特産品があることを知り、福井を誇らしく思いました。いつか自分で幼児向けの絵本を作り、食べ物を魅力的に描いてみたいです。



## 「ふくいのとくさんひん食えほんずかん 第2弾」を制作しました!

地元・福井の食文化を知り、その伝え方を考える機会に。

福井が誇る食の特産品をまとめた絵本図鑑を学生と協働で制作しました。大人から子どもまで幅広く知ってもらうことを目的としています。2018年3月に第1弾として制作したものを、改訂・ボリュームアップしました。第2弾となる今回は、前回の倍近くとなる計262品を紹介。珍しいものや生産数の多いものなどを中心に、文献やメディア情報などから選出しました。完成した絵本図鑑は、県内の教育・保育施設や図書館に寄贈予定です。庄田晴香さん(卒業生)を中心として本活動に参加した7名の学生は、それぞれ担当する特産品について調べ、絵と説明文を制作。水彩色鉛筆を用いて、リアルで繊細な色の表現に挑戦しました。学生たちは、制作を通して福井について理解を深めた様子でした。将来教育の現場に携わる時には、この絵図鑑を活用して、子どもたちに福井の食の魅力を教えてあげてほしいです。



子ども教育学科長  
伊東 知之 教授

### 1年生で対面授業を行いました。

7月28日、8月11日の両日で、1年生の初登学を実施。2教室に分かれ、対面形式で授業を行いました。学科長と各教員の挨拶に始まり、教員との初対面を果たすと、グループワークの時には同級生と和やかに話す場面も見られました。9月末に始まる後期授業からは、一部の授業を対面形式で実施する予定です。



# 子ども教育学科 活動レポート!

子ども教育学科の学生たちは、ゼミでの活動を通して様々な学びを得て、教育に生きる経験を積んでいます。

## 地域に関する新聞記事を題材に、子ども向けクイズを制作・掲載

### 新聞記事を教科書にして教えられること。

地域を取り上げた新聞記事を選び、その内容を元にクイズを制作し、紙面に掲載するプロジェクト。大野木ゼミと福井新聞社の共同事業として、2020年5月より継続して活動しています。クイズを通して子どもたちに記事を読み込んでもらい、地域に愛着を持ってもらうことを目指しています。教科書に載っていない言葉の学びなども生まれます。子どもの知的レベル・興味関心について、考えを深める機会になっています。

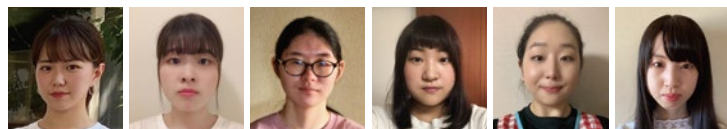


子ども教育学科  
大野木 裕明 教授



子ども教育学科4年 若吉 莉奈  
武生東高校出身  
子ども教育学科4年 紺渡 有紗  
仁愛女子高校出身

子ども教育学科4年 林 沙織  
仁愛女子高校出身  
子ども教育学科3年 大西優斗  
科学技術高校出身



子ども教育学科4年 濱野 華子  
羽水高校出身  
子ども教育学科3年 百瀬 清香  
羽水高校出身  
子ども教育学科3年 木村 瑞貴  
丹生高校出身  
子ども教育学科3年 矢部 りえ  
武生東高校出身  
子ども教育学科3年 砂子 怜菜  
大野高校出身  
子ども教育学科3年 師田 華  
仁愛女子高校出身



クイズは小学5年～中学2年の学力に合わせて制作。  
小学校の先生によるチェックを経て掲載されます。

### わかりやすく伝えることで、記事に楽しんでもらえればと思います。

最初のうちは、子どもにとって難しすぎるクイズを作ってしまうこともありましたが、何度も修正して、自分で作った文章を客観的に見ることの難しさを感じながら、制作を進めました。この活動を通して、子どもに伝わりやすい言葉の選び方、文章の組み立て方について学べただけでなく、どんな相手に対してわかりやすく伝えることを大切にしようと思えることができるようになりました。

## 越前市の外国人住民が利用できるICTを活用した日本語教材を開発

### どのような視点・表現にすれば、親しみやすいか。

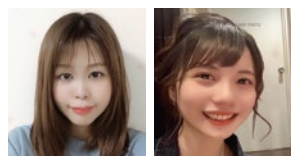
対象は、本学のある越前市で生活する外国人住民です。スマートフォンなどを用いて自分のタイミングで日本語を学習できるよう、ICT(情報通信技術)を活用した教材の開発に、籠谷ゼミの4年生4名が取り組みました。日常生活や防災の場面を想定したミニドラマやクイズを通して、簡潔で使いやすい日本語を学べる内容に構成しています。教材づくりにおけるデジタル技術や視点、地域の外国人の置かれている現状について学べたことは、教育の現場でも活きるはずだと感じています。



子ども教育学科  
籠谷 隆弘 教授



買い物など、日常生活で頻繁に登場するシーンを題材に、映像教材を制作しました。



卒業生 竹内 由衣  
(企画担当)  
卒業生 品川 晴香  
(web担当)

卒業生 水島 菜々  
(撮影担当)  
卒業生 倉貫 春菜  
(編集担当)

### これからの保育で活かせる考え方や技術が身につきました。

越前市の外国人住民に直接インタビューを行い、日常生活で困っていることを調査し、その課題を解決する教材づくりを目指しました。先生に作り方を教えてもらったり、アイデア等を出し合ったりしながら、協力して完成させることができました。制作で身につけた技術は、保育の現場に携わる際、教材作りや、子どもの遊びを作るときに役立てたいです。